

「情報社会」とは、多くのメディアに囲まれ、多くの情報が飛び交い、情報が大きな価値をもつ社会です。そのような社会に生きるうえでは、飛び交う情報を適切に扱い、確かな情報をきちんと手に入れることが大切だと考えます。

フェイクニュースという言葉があります。嘘の報道のことです。二〇一九年に、アマゾンで森林火災が急増していることに怒りを感じた人々が、SNSに火災の写真を投稿しました。しかし、写真の大半は数十年前に撮影されたものや、さらにはブラジル以外の国で発生した火災を写したものでした。

SNSにはたくさんフェイクニュースがありますが、嘘の情報は真実より早く広まるそうです。

映画監督の押井守は、『ひとまず、信じない』（二〇一七年、中央公論新社）の中で、「何が現実なのかということは、人間には実証できない」「リアルタイムで真実を追求するというインターネットの構造そのものが、フェイクニュースを生み出す仕組みになっている」といっています。

私たちは、情報を適切に扱うために、同じ情報を扱ったものを探して比べるなどして情報の確かさを調べたり、「インターネットの構造そのものがフェイクニュースを生み出す」ことを意識したりする必要があります。